

平成23年度公共用水域の水質測定結果について

平成24年 9月12日

環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて策定した「平成23年度公共用水域の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

- 1 調査期間 平成23年 4月～平成24年 3月
- 2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省、独立行政法人水資源機構
- 3 測定項目及び調査地点

区分	生活環境項目	健康項目	ダイキソ類	要監視項目	その他
項目数	10	27	1	26	16
地点数	河川	73	38	7	24
	湖沼	8	6	2	1
	海域	130	23	4	5

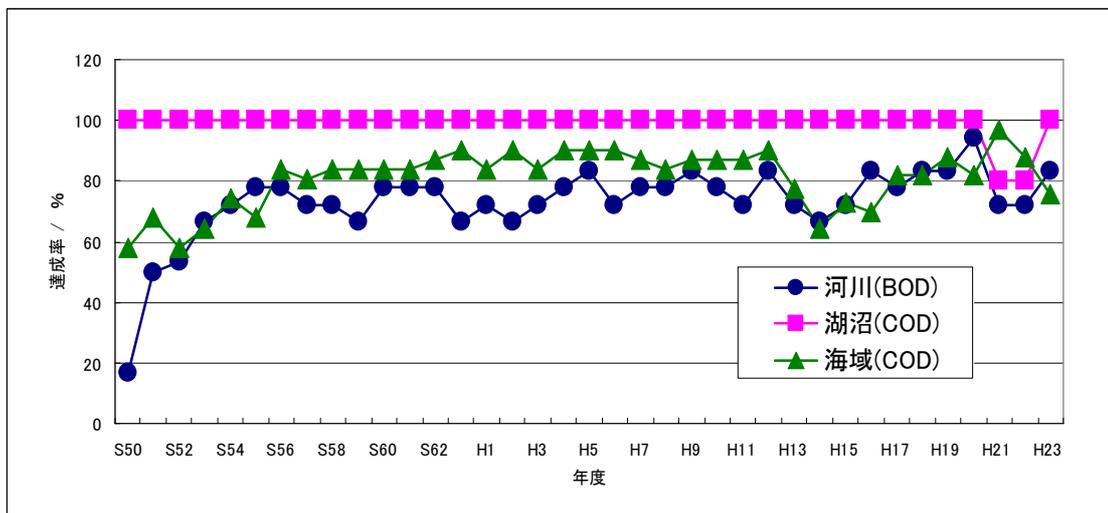
4 調査結果の概要等

(1) 生活環境項目

ア 環境基準点における環境基準の達成状況は、河川(BOD)が83%、湖沼(COD)が100%、海域(COD)が76%であり、全体では80%であった。

BOD又はCODの環境基準の達成状況

区分	平成23年度		(参考) 平成22年度	
	達成率	達成水域数/調査水域数	達成率	達成水域数/調査水域数
河川	83%	15/18	72%	13/18
湖沼	100%	5/5	80%	4/5
海域	76%	25/33	88%	29/33
合計	80%	45/56	82%	46/56



参考：環境基準達成率の経年変化 (BOD又はCOD)

○未達成水域の状況等

区分等		23年度	22年度
河川	AA類型	石手川(乙)	石手川(乙)、中山川水域(甲)
	A類型	重信川(甲)、肱川水域(甲)	重信川(甲)、肱川水域(甲) 中山川水域(乙)
湖沼	A類型	—	新宮ダム貯水池
海域	A類型	伊予三島・土居海域、新居浜海域(丙)、西条海域(丙)、東予海域(丙)、宇和海一般、燧灘東部	東予海域(丙)、宇和海一般、燧灘東部
	B類型	三島・川之江地先海域(3)、三島・川之江地先海域(4)	三島川之江地先海域(4)

イ 全窒素及び全リンの環境基準の達成状況(海域のみ)

	23年度	22年度
全窒素	100% (5水域)	100% (5水域)
全リン	100% (5水域)	100% (5水域)

(2) 健康項目

調査を実施した67地点(河川38地点、湖沼6地点、海域23地点)全てにおいて、環境基準を達成した(平成22年度も達成)。

健康項目の調査結果概要

(単位: mg/L)

項目	調査結果	基準値
カドミウム	<0.001	0.003以下
全シアン	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	0.01以下
六価クロム	<0.04	0.05以下
砒素	<0.001~0.008	0.01以下
総水銀	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと
PCB	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.01	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.1	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.003	0.03以下
テトラクロロエチレン	<0.001	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002以下
チウラム	<0.0006	0.006以下
シマジン	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	<0.002	0.02以下
ベンゼン	<0.001	0.01以下

セレン	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.02~2.5	10以下
ふっ素	<0.08~0.71	0.8以下
ほう素	<0.02~0.28	1以下
1,4-ジメチルベンゼン	<0.005~0.005	0.05以下

(3) ダイオキシン類

調査を実施した13地点（河川7地点、湖沼2地点、海域4地点）全てにおいて、環境基準を達成した（平成22年度も達成）。

ダイオキシン類の調査結果概要

（単位：pg-TEQ/l）

（単位：pg-TEQ/g）

区分	水質			底質		
	地点数	調査結果	基準値	地点数	調査結果	基準値
河川	7	0.034~0.27	1以下	6	0.22~2.8	150以下
湖沼	2	0.067~0.081		2	1.5~1.8	
海域	4	0.018~0.045		4	1.6~5.2	

(4) 要監視項目

調査を実施した30地点（河川24地点、湖沼1地点、海域5地点）において、2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過した。

（平成22年度も2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過した。）

要監視項目指針値超過地点の調査結果概要

（単位：mg/l）

区分	超過地点	項目	調査結果 (年平均値)	指針値	要因等
河川	加茂川水域St-7	アンチモン	0.14	0.02	地質由来
	砥部川水域St-2		0.048		
海域	松山海域St-2	ウラン	0.0031	0.002	海水由来

(5) その他項目

内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン物質）については、調査を実施した5地点（河川1地点、海域4地点）全てにおいて、4項目ともに検出されなかった（平成22年度も検出されず）。

内分泌攪乱化学物質の調査結果概要

（単位：μg/l）

区分等	調査地点数	ノルフェノール	4-オクチルフェノール	ビスフェノールA	DDT
河川	1	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
海域	4	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
定量下限値	—	0.1	0.01	0.01	0.05